



## 2016年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2015年11月10日  
東

上場会社名 株式会社 アテクト 上場取引所  
 コード番号 4241 URL <http://www.atect.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小高 得央  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務部次長 (氏名) 和田 敦 (TEL) 072(967)7000  
 四半期報告書提出予定日 2015年11月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2016年3月期第2四半期の連結業績 (2015年4月1日～2015年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2016年3月期第2四半期	1,250	7.0	152	24.8	82	△39.4	62	△12.2
2015年3月期第2四半期	1,168	△9.7	122	△12.8	135	△5.8	70	△41.2

(注) 包括利益 2016年3月期第2四半期 26百万円 (△73.4%) 2015年3月期第2四半期 100百万円 (△33.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2016年3月期第2四半期	15.08	14.46
2015年3月期第2四半期	17.43	17.07

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2016年3月期第2四半期	4,301	1,414	31.8
2015年3月期	3,779	1,385	35.5

(参考) 自己資本 2016年3月期第2四半期 1,365百万円 2015年3月期 1,341百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2015年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2016年3月期	—	0.00	—	—	—
2016年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2016年3月期の連結業績予想 (2015年4月1日～2016年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	2,750	16.5	320	55.3	290	16.5	210	68.0
								51.32

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2016年3月期2Q	4,207,200株	2015年3月期	4,207,200株
2016年3月期2Q	32,847株	2015年3月期	115,127株
2016年3月期2Q	4,113,535株	2015年3月期2Q	4,053,497株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続きは終了しています。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、2015年11月24日に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における日本国内の経済状況は足踏み状態となっております。個人消費は物価上昇率低下に伴う実質所得の下げ止まりや消費者マインドの改善もあり持ち直しの動きが続いていましたが、名目賃金の伸び悩みなどから弱めの動きとなっております。海外市場においては米国における労働市場の回復を背景に個人消費や住宅投資が強い伸びを示しましたが、ドル高や原油安に伴い外需が弱いほか、資源関連の設備投資は減速しました。一方、日本における景気の先行きに関しては、海外経済の減速を背景に輸出が伸び悩むものの、個人消費、住宅投資、設備投資の増加などから国内民間需要を中心にプラス成長を続けることが予想されます。

このような中、当社グループでは安定した収益基盤構築を目的とし、4年前にスタートした事業構造改革活動の結果、3期連続の高収益を確保することができました。第1四半期連結会計期間より、PIM事業の拡大、半導体資材事業の4Kテレビ対応、臨床検査分野への参入など、従来の守りから、拡大成長に向けた攻めへの転換を図るべく、第2次構造改革をスタートしました。その結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益としては、過去最高となりました。中でもPIM事業は、過去最高の売上高、営業利益を更新、衛生検査器材事業についても売上高で過去最高となり、全セグメントにおいて増収・増益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が1,250百万円(前年同期比7.0%増)、営業利益152百万円(前年同期比24.8%増)、為替差損益を含む経常利益82百万円(前年同期比39.4%減)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益については、62百万円(前年同期比12.2%減)となりました。

#### ※経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益の減益について

当社グループでは、半導体資材事業の90%以上が韓国、台湾の売上となっていることから、外貨建資産を持っております。第2四半期末レートが著しく円高、ウォン安・台湾ドル安に振れたことで、外貨建資産の換算に伴う未実現為替評価損等59百万円を為替差損に計上致しました。最近の為替レートにおいては回復基調にある為、現在では現地での運転資金を残し、既に一部円転換を済ませております。また、残った外貨建資産を最近の為替レートで換算した場合、経常利益は当発表数値に対し、約34百万円増となります。

セグメントの概況は次の通りであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は変更後の区分に基づいております。

#### ① PIM(パウダー・インジェクション・モールドィング)事業

堅調な材料販売に加え、大手2社のハイエンドカメラ部品の焼結品(PIM製法初)生産を開始、また、3案件の自動車関連部品試作金型、試作品販売が売上伸長に貢献しました。

商品化の進捗につきましては、自動車関連部品において国内大手自動車メーカーよりターボチャージャー部品であるウェイトゲートバルブの試作金型を受注致しました。また、去る2015年10月20日から、3日間開催されたEngine Expo 2015(米国)において、大手ターボチャージャーメーカーと次世代ターボローター(新素材・新形状)の開発基本契約を締結致しました。一方でダウンサイジングターボ同様、急速に進みつつある電動化の中でパワーデバイスの放熱部品(ヒートシンク)において、これまでにない数多くのテーマを頂きました。

転がり軸受け(ボールベアリング)としては、PIM工法では初となる(当社調べによる)、セラミックスボールにおいてSi<sub>3</sub>N<sub>4</sub>(窒化ケイ素)、ダイヤモンドやc-BNに次ぐ硬度を有するB<sub>4</sub>C(炭化ホウ素)などの商品化に向け、開発・販売における素材別個別契約を締結、セラミックスボールベアリングの早期、製品化を加速させて参ります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は68百万円(前年同期比9.6%増)となり、営業利益23百万円(前年同期比9.5%増)となり、いずれも過去最高を更新致しました。

② 半導体資材事業

半導体資材事業につきましては、当第2四半期連結会計期間では、中国経済の失速により売上計画が未達（顧客在庫調整）となりましたが、新製品である4K対応高品質スペーサーテープへの置き換えが順調に推移する中、競合メーカーとの差別化が図れたことで大幅なシェアアップが可能となりました。新製品投入による販売価格の下落を抑えたこと及び日本生産の生産変革活動の効果により、売上総利益率52.4%、営業利益率12.8%を達成し、強固な原価体質の構築が可能となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は394百万円（前年同期比13.8%増）となり、営業利益50百万円（前年同期比44.0%増）となりました。

③ 衛生検査器材事業

衛生検査器材事業につきましては、原価面においては高騰が続いていたシャーレ主原料であるPS材料価格の下落、新生産ライン（外注レス化を目的とした自社開発設備）の償却費減により、当第2四半期連結累計期間のシャーレ単独売上総利益率は44.7%（前年同期34.5%）と過去最高水準となりました。

販売面においては、社内データベースを再構築し、13,000社にのぼる顧客からの発注、数量、頻度、地域などのセグメンテーションをより細分化できるようになり、テレマーケティングによる受注獲得率（16.0%向上）の飛躍的向上を過去最少人員で実現することができ、第2四半期連結累計期間としては、過去最高の売上高となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は796百万円（前年同期比3.5%増）となり、営業利益79百万円（前年同期比19.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は、前連結会計年度末に比べ13.8%増の4,301百万円となりました。

これは、「現金及び預金」が370百万円、「機械装置及び運搬具」が85百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べ20.6%増の2,887百万円となりました。

これは、「短期借入金」が200百万円、「長期借入金」が242百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ2.0%増の1,414百万円となりました。

これは、「利益剰余金」が20百万円、「自己株式」が39百万円増加する一方、「為替換算調整勘定」が35百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2015年5月12日発表の通期の業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### (税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### (会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2013年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 2013年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 2013年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

#### (税金費用の計算方法の変更)

従来、当社グループの税金費用については、原則的な方法により計算しておりましたが、当社グループの四半期決算業務の一層の効率化を図るため、第1四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2015年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2015年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,059,962	1,430,137
受取手形及び売掛金	377,633	351,165
商品及び製品	148,592	131,092
仕掛品	10,667	21,636
原材料及び貯蔵品	97,635	161,056
繰延税金資産	65,824	63,710
未収還付法人税等	2,011	1,893
その他	24,907	41,377
貸倒引当金	△465	△793
流動資産合計	1,786,769	2,201,277
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	578,677	562,367
機械装置及び運搬具(純額)	329,003	414,946
土地	509,974	509,974
建設仮勘定	310,900	320,095
その他	16,722	27,052
有形固定資産合計	1,745,279	1,834,435
無形固定資産		
その他	129,318	147,650
無形固定資産合計	129,318	147,650
投資その他の資産		
投資有価証券	2,772	2,986
繰延税金資産	96,660	96,573
その他	20,038	19,322
貸倒引当金	△849	△246
投資その他の資産合計	118,622	118,635
固定資産合計	1,993,219	2,100,722
資産合計	3,779,989	4,301,999

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2015年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2015年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	328,763	317,969
短期借入金	-	200,000
1年内返済予定の長期借入金	588,618	620,423
1年内償還予定の社債	70,000	30,000
リース債務	65,604	57,878
未払金	68,466	69,936
未払法人税等	11,585	12,377
賞与引当金	25,073	38,278
設備関係支払手形	37,867	111,730
その他	34,802	32,321
流動負債合計	1,230,781	1,490,915
固定負債		
長期借入金	1,146,505	1,389,018
リース債務	12,461	3,598
繰延税金負債	154	151
その他	4,366	4,281
固定負債合計	1,163,487	1,397,049
負債合計	2,394,268	2,887,965
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	729,645	729,645
資本剰余金	649,645	649,645
利益剰余金	△3,781	16,379
自己株式	△55,567	△15,881
株主資本合計	1,319,940	1,379,787
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	978	1,123
為替換算調整勘定	20,445	△14,985
その他の包括利益累計額合計	21,423	△13,861
新株予約権	44,355	48,107
純資産合計	1,385,720	1,414,034
負債純資産合計	3,779,989	4,301,999

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2014年4月1日 至2014年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2015年4月1日 至2015年9月30日)
売上高	1,168,054	1,250,020
売上原価	608,087	620,586
売上総利益	559,966	629,434
販売費及び一般管理費	437,548	476,602
営業利益	122,418	152,831
営業外収益		
受取利息	486	1,083
為替差益	23,740	-
受取賃貸料	1,028	1,000
その他	3,312	2,711
営業外収益合計	28,567	4,795
営業外費用		
支払利息	10,553	8,941
社債利息	654	315
減価償却費	3,180	2,131
為替差損	-	59,711
支払補償費	-	3,563
その他	1,196	911
営業外費用合計	15,586	75,575
経常利益	135,400	82,051
特別利益		
新株予約権戻入益	2,013	1,467
特別利益合計	2,013	1,467
特別損失		
固定資産売却損	119	-
製品補償損失	34,944	6,365
その他	-	150
特別損失合計	35,063	6,516
税金等調整前四半期純利益	102,350	77,001
法人税等	31,693	14,986
四半期純利益	70,656	62,015
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	70,656	62,015

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2014年4月1日 至2014年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2015年4月1日 至2015年9月30日)
四半期純利益	70,656	62,015
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	144
為替換算調整勘定	29,770	△35,430
その他の包括利益合計	29,766	△35,285
四半期包括利益	100,423	26,730
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	100,423	26,730
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。